

「脱核兵器」と持続可能性
～ポスト SDGs に向けた転換と移行のための課題とビジョン～【要旨】

1. 趣旨

核兵器問題は、これまで主に「平和・安全保障」の軸と「人道・倫理」の軸で議論されてきたが、我々は、新たに「持続可能性」の軸を加え、核兵器問題を立体的に捉え、より良い未来に向けた「転換」の必要性を世界に提唱する。

2. 我々が訴えること

現行の持続可能な開発目標（SDGs）の次に策定されるべきグローバルな共通目標に向けて、開発の先にある「平和と繁栄」を明示した「持続可能な平和と繁栄をすべての人に（Sustainable Peace and Prosperity for All）」についての議論の場を作りたい。その際、核兵器との完全な決別である「脱核兵器」の実現なしに、真に持続可能な世界はないことから、核兵器廃絶の議論を行いたい。

3. 我々の課題認識

（1）「脱核兵器」の世界への転換と公正な移行へ

ウクライナ危機で核兵器への関心が高まる今こそ「脱核兵器」の世界への転換への議論が必要である。我々の行動が、現状の範囲内の小手先の対応や先送りなら、それは課題の「転嫁」ではない。より広い視座に基づく具体的な「転換」とそのための「公正な移行」が求められる。

（2）3つの危機

我々は、3つの危機に直面している。これらはお互いに増幅し合い、核兵器問題と結びつき、危機の深刻さを増大させている。いま「転換」しなければ、地球や人類が「持続不能」なカタストロフィー（破局）に向かうティッピング・ポイント（限界点）を超えてしまうことが危惧される。

① 「地球の限界」に関する危機

人類の活動が地球のキャパシティの限界まで影響（人新世）

② 「世界・社会の大いなる分断」による危機

世界や社会の分断、大国間の地政学的な対立、格差、不平等や非寛容が拡大

③ 「科学技術イノベーションの濫用」に関わる危機

科学技術イノベーションの濫用が地球や人類に災厄を及ぼすリスク

4. 転換に向けたアイデア ※具体的な提言を広く募り、検討を続ける

（1）客観的なデータ・エビデンスに基づいた政策立案

核兵器の存在が社会コスト・環境負荷を増している事実、AI・デジタル技術が軍事・核兵器に及ぼす影響、気候変動に関する科学的知見を集約し政策決定プロセスに組み込んだ IPCC・SBSTA（Subsidiary Body for Scientific and Technological Advice）の例、等を踏まえ、客観的なデータ・エビデンスに基づいた政策立案を進める。

（2）立体的なネットワークでの議論

自治体を含む多様な市民社会のアクターを、分野を越えて縦横に立体的なネットワークとしてつなげ、核兵器問題と持続可能性を巡る議論の場をつくることを実践する。

（3）「核兵器のない世界」の具体像の提示

「核兵器のない世界」が具体的にどのような世界なのか、人類にどのような可能性と繁栄をもたらすのか、人間の安全保障を巡る議論や、南半球で実現している非核兵器地帯等の先行事例を参考にしながら、ユースと共に具体像を提示する。

これらの実現を目指し、2030 年に向けて、ポスト SDGs に核兵器廃絶を位置づけるべく、「市民社会」と「政府間」の 2 つの道筋で、主流化していくことを構想している。